

ハイデルベルク信仰問答より

**問 90** 新しい人に生まれるということは、どういうことですか。

**答え** キリストにより、完全に神を喜び、神の御心に従ってあらゆるよい業に生きることを、切望することです。

今日は「新しい人」について考えてまいります。「古い人から新しい人に生まれ変わる」という救いの真理が語られているのですが、これは信仰者の内的な変化を表しています。まずはこのことばが出てきた文脈を振り返っておきましょう。

**問 88** 人間の真の悔改めと回心には、いくつの要素がありますか。

**答え** 二つの要素があります。古い自分に死ぬことと、新しい人に生まれ変わることであります。

この内容を受けて、問 89 では「古い人」について考えましたが、そこではこのように説明させていただきました。「古い自己とは」「生まれながらに神に背を向け、神に喜ばれない生き方をしていることにすら気づかず、罪を罪とも思わず、あるいは罪だと知っていてもそれを選択してしまう、まさに『罪の奴隷』として人生を送っていた頃の私たち」。これらすべてをひっくり返してみると、こうなります。「神に心を向け、神が喜ばれる生き方を志し、罪を憎み、その道を選択せず、罪から解放された人生」。問 90 の答えとほぼ一致した内容になりますが、その答えの冒頭に「キリストにより」という前提が書かれていることが重要です。私たちが新しい人としての人生を歩めるようになったのは、主イエスによって贖われたからにはほかなりません。

聖書の中に「新しい人」という表現がどれくらい出てくるかを調べてみたところ、意外にも少なく、エペソ 2:15、4:24、コロサイ 3:10 の三箇所だけでした。これらの箇所から「新しい人」とは何であるかを読み取ってまいります。

(キリストは…)数々の規則から成る戒めの律法を無効とされました。こうしてキリストは、ご自分において二つのものを一人の新しい人に造り変えて、平和をもたらしてくださいました。(エペソ 2:15)

この箇所の文脈では、神と罪人の関係を和解へと導かれた主イエスの十字架の御業が語られています(縦の関係)。そしてこのことが、ユダヤ人と異邦人の和解の根拠となっています(横の関係)。「二つのものを一つにする」とは、神と人／人と人との関係の両面を含む事柄です。

真理に基づく義と清さの内に、神にかたどって造られた新しい人を着なさい。(エペソ 4:24)

ここでは「新しい人」が衣服のように着るべきものとして描かれています。「新しい人」を着るに先立ち、「古い人」を脱ぎ捨てるよう教えられてもいます。パウロが言う「古い人」とは、「情欲に惑わされ墮落している人」(4:34)であって、「新しい人」とは「聖なるキリストの人格」または「キリストの義」を指すと思われます。

**新しい人を着なさい。新しい人は、造り主のかたちに従ってますます新たにされ、真の知識に達するのです。(コロサイ 3:10)**

この箇所直前の 3:9 では、古い人の行いとして「怒り、憤り、悪意、冒瀆、口から出る恥ずべき言葉」「嘘」が挙げられています。つまり、「新しい人」はその反対のことばを発するのです。敢えて言うならば、「冷静、寛容、善意、崇敬、聖なる言葉」「真実」となるでしょうか。

究極的には「新しい人」とはキリストご自身を指すのであって、この方が私たちの心に聖霊として住まわれることにより、キリストの人格が私たちの人格となり、私たちが発することばはキリストのことばと一致してくるのです。「完全に神を喜び、神の御心に従ってあらゆるよい業に生きる」とは、主イエスの生き方そのものであり、それが私たちの生き方として映し出されていくということでしょう。